

さくらタイムス令和7年5月号

お題は「チームのちから」です。昨年のハリウッド・アカデミー視覚効果部門でアジア初の受賞となったのは「ゴジラ-1.0」です。長年忘れていましたが、幼少期は兄の影響で元祖着ぐるみゴジラにどっぷり浸っており、受賞を機に観ると「どこからCG?」という映像でした。テレビで栄光の舞台裏が分かり、感動したのは監督「山崎組」のチームワークです。VFXではハリウッドに20年遅れていた日本で、監督は独学で技術を学び、その才能に惚れた剛腕プロデューサー安部氏の手厚い援助と厳しいチェックを受けながら、全体の三分の二にも及ぶSFXの「ゴジラ」制作にかかります。ハリウッドの1000人近いスタッフと超高額予算による作品を超えようと、超少人数35人が超低額予算で挑んだのでした。起爆剤となったのは、「ひとりハリウッド」と呼ばれる天才技術者が繊細かつリアルなゴジラを作り上げたこと、SNSでスカウトされた10代ユーチューバーの一人が、東北大震災・不登校を経ながらも祖父母の支えでCGの技術を磨き、「植木職人」となってSFXで木が生い茂る見事な島を作ったこと、またもう一人の若手が、SFXでタブーとされていた海を自ら技術を磨き上げ、スピルバーグ監督に「水の見せ方がすごい!」と言わしめるほどの世界に作り上げたことでした。この起爆によって、昔からのスタッフも次々とレベルを上げ、いつの間にかびっくりするようなクオリティを出せる天才集団となっていったそうです。加えて監督がキャスターの事務椅子でコロコロとスタッフの机から机へ動き回り、「チェック→すぐに修正」の流れで、ハリウッドでは監督と技術者の間に何人ものチェック担当が存在するのに比べ、効率と精度を高めるという点では世界最速となったと誇っていました。監督は、「受賞の現

実感はなく、ただラッキーが重なっただけで、真に受けず奢らないようにしている」と言われています。この謙虚さと職人に徹したチーム作りで、ありえないとされた一番を勝ち取られたのでしょう。

保育の世界には、日々の仕事に対する受賞はありません。さくらはそれでも保育の理想を掲げ、皆が一丸となって一生懸命毎日の「お世話と教育」を一つずつ大事に重ねてゆき、元気潑刺で賢くかわいい子ども達の姿を保護者の方々と共に愛でて喜ぶことが、何よりの「ほまれ」と信じています。どうぞ一緒に世界一のチームワークで子ども達の一生の基礎を作っていただきますよう心よりお願いいたします。

園長 山内 香幸